

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	佐賀整肢学園こども発達医療センター ひよこ教室			
○保護者評価実施期間	R6年 11月 1日 ~ R6年 11月 22日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	R6年 11月 1日 ~ R6年 11月 22日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 27日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個性・特性に留意しながら、実施している支援に関しては評価いただいている。	支援するにあたって、職員会議や多職種での支援会議で検討を図っている。医療機関や専門機関と連携してのサポートを心がけている。	勉強会や研修会に積極的に参加できるような体制づくりと調整を図っていく。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の役割（利用者支援、行事準備、会議・研修、実習の受け入れ）が多岐にわたっている。	業務整理が十分に図れていない。	業務整理をおこない改善を図っていく。
2	インクルーシブルな交流の機会がすくない。	感染症対策もあり交流の機会をつくれていない。	感染対策も留意しながら、当センター託児所利用児との交流の機会を図っていく。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		佐賀整肢学園こども発達医療センター ひよこ教室				公表日	R7年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0			
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	6	充実したサービスが提供できるように、他部署からのサポートをうけながら支援人数を調整している（多機能でサービスを提供）。R7年1月に保育士を1名追加した。	小児に係る実習生の受け入れ、会議、研修を踏まえて業務整理が必要。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	個性・特性に配慮しながら環境を整えている。セラピーマットを新調した。設置している暖房だけでは、暖まりにくかったので新しい暖房器具にて調整している。	暖房器具にて、利用児が火傷等の怪我をしないように配慮・対応が必要である。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	3	活動スペースは、毎日拭き掃除・消毒・整理整頓をおこない過ごしやすい環境になるよう配慮しています。	空調の調子がわるくエアコンを使いがよくない。追加の冷暖房機などで調整が必要。気温上昇等もありカビ対策も十分にしていく必要がある。経年劣化による課題にもその都度対処していく必要がある（照明、扉等の建付け、トイレの介助台など）	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2		業務の繁忙状況を調整しながら、スタッフ全員で高い頻度で参画できるように調整していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0		一足飛びに改善できる事ばかりではないが、継続して話し合いの場を設け意見を徴収できるようにしていきたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5		現在のところ第三者による外部評価は実施できていない。検討していきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0		支援プログラムをより分かりやすいものしていく必要がある。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	毎朝、ミーティングにて情報共有している。毎週木曜日には、支援検討会議を実施している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0			
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	4	子どもの個性・特性にあった支援の方法について、職員会議や多職種での支援会議で検討を図っている。医療機関や専門機関と連携してサポートを行っている。	様々な個性・特性をもった子ども達あったフォーマルアセスメントとインフォーマルなアセスメントについて検討していく必要がある。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1		児童発達支援ガイドラインの内容について理解を深めていく必要がある。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0			

供 給	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0		
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	毎朝、ミーティングにて情報共有している。 毎週木曜日には、支援検討会議を実施している。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	毎朝、ミーティングにて情報共有している。 毎週木曜日には、支援検討会議を実施している。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0		
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0		
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0		
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0		
	(28~30は、センターのみ回答)	8	0		
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8	0		
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	4	4	佐賀中部圏域の自立支援協議会こども部会は現在稼働していない状況がある。再開に向けて検討が必要である。	
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	1		
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0		
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2		
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0		
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	0	春の遠足、秋祭り、クリスマス会などの行事を通して連携のサポートを図っている。ほのぼのcafeを開催し更なる家族支援の充実を図っている。	在宅支援部門利用児・者保護者合同での懇親会は参加者がいなかった。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	秋祭りや地域公開講座を実施し地域に開かれた事業所であるように努めている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0		
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0		